

鳥獣害対策の推進

要約

鳥獣による被害の拡大により、農業生産額・所得が減少している。近年は対策を講じることで、被害は減少傾向にあるものの、依然として被害は発生している。そこで地域に応じた鳥獣害対策を図ることによって、より一層の被害低減を目指す。

現状(背景)と課題

- ・捕獲サポート隊による活動により被害は低減できているものの、侵入は継続。そこで捕獲サポート隊の活動支援を継続することにより、一層の被害低減を目指す。(古田 I 団地)
- ・従来と異なる場所や新たな獣種(サル)の被害発生。侵入経路の確認や、サルに対応することで被害低減を目指す。(大岩集落)

目標

- ・農作物被害面積
古田 I 団地 (R5→R8)
2.9ha/17ha→0.9ha/17ha
大岩集落 (R5→R8)
0.5ha/2ha→0.2ha/2ha

活動内容

- 捕獲サポート隊への指導。(古田 I 団地)
 - ・捕獲サポート隊に対する安全講習会の実施。
 - ・トレイルカメラデータでの加害獣侵入経路の確認。
 - ・団地の侵入防止柵を捕獲サポート隊で総点検。(7月、3月)
- モデル地域に対する指導。(大岩集落)
 - ・定期的な集落、町役場、猟友会との対策会議の開催。
 - ・トレイルカメラによる加害獣の侵入経路確認。
 - ・テキサスゲートの効果検証。



集落での打合せ

成果

古田 I 団地

- ・農作物被害面積の減少。(R5→R6)
2.9ha/17ha→2.6ha/17ha

大岩集落

- ・テキサスゲートに対するシカ、イノシシの侵入防止効果を確認。
- ・農作物被害面積の減少。(R5→R6)
0.5ha/2ha→0.2ha/2ha



捕獲サポート隊による柵の補修



テキサスゲート

テキサスゲートを警戒するシカ

南部農林振興事務所農業振興課
担当：農産物ブランド推進係
鈴木・山本
集落ぐるみ被害対策強化事業

普及活動のポイント

- ・侵入防止柵の修繕強化を行うことで被害面積を縮小。（古田Ⅰ団地）
- ・集落住民を交えた対策会議を定期的に行い、集落住民による被害対策を実施。（大岩集落）

対象の変化

- ・加害獣の侵入経路、被害場所を共有し、生産者の意識を向上。（古田Ⅰ団地）
- ・集落住民がサルの出没情報を、SNS を活用することで迅速に共有。（大岩集落）

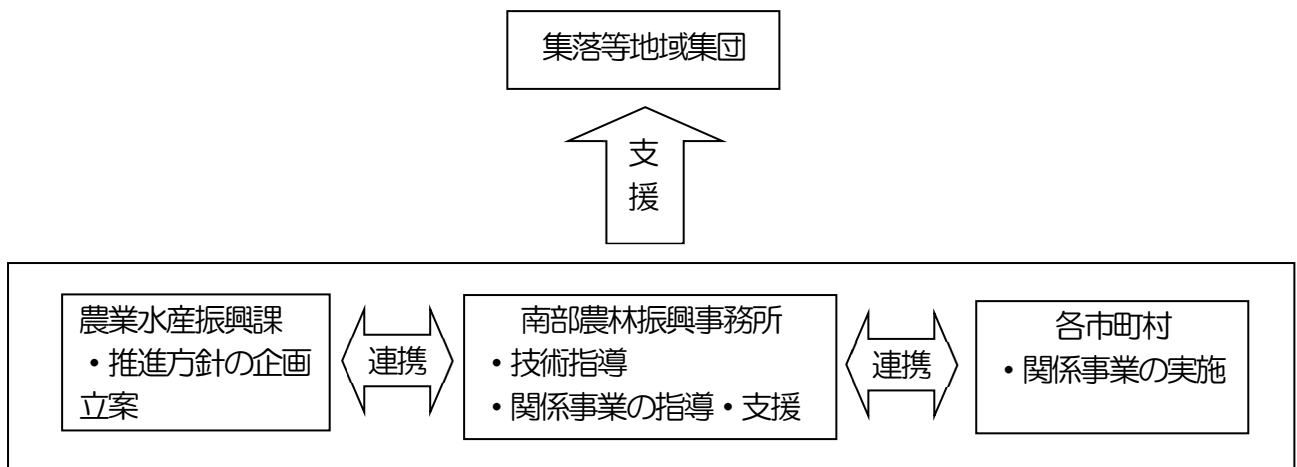
対象者からのコメント

- ・指導いただいていることは、団地内生産者の意識向上を図る上で重要。引き続き取り組みに対する指導をいただくと被害抑制につながる。（古田Ⅰ団地）
- ・トレイルカメラによる侵入箇所の確認は、被害対策上有効。また猿害対策における捕獲支援の継続を希望。（大岩集落）

これからの活動ビジョン

- ・捕獲サポート隊の取り組みにより被害対策を推進しているので、継続的に活動ができるように支援。（古田Ⅰ団地）
- ・猿害対策についてはR6年度からの取り組みであるため、引き続き指導を行い、獣を寄せ付けない集落づくりを支援。（大岩集落）

活動体制



用語解説

トレイルカメラ

赤外線センサーが動物や人などの動作する熱源を感知した場合に自動で動画・静止画の撮影を行うカメラ

テキサスゲート

フェンスで封鎖できない道路の開口部分に、シカやイノシシが歩行困難な形状に加工したグレーチングを道路上に敷設したもの